

### 第3章 学習内容の観点から

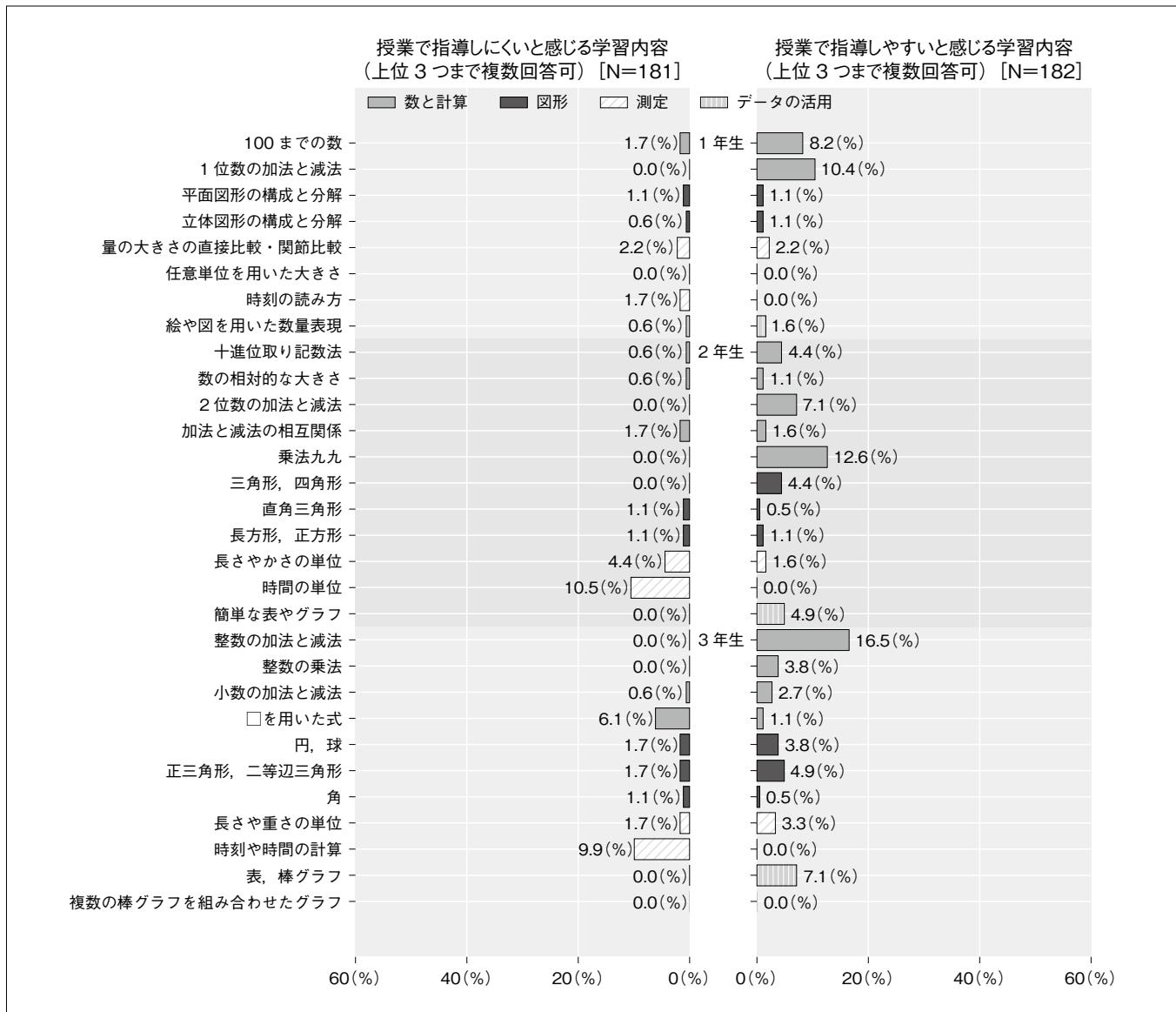
#### DATA3-① 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について (小学校算数)

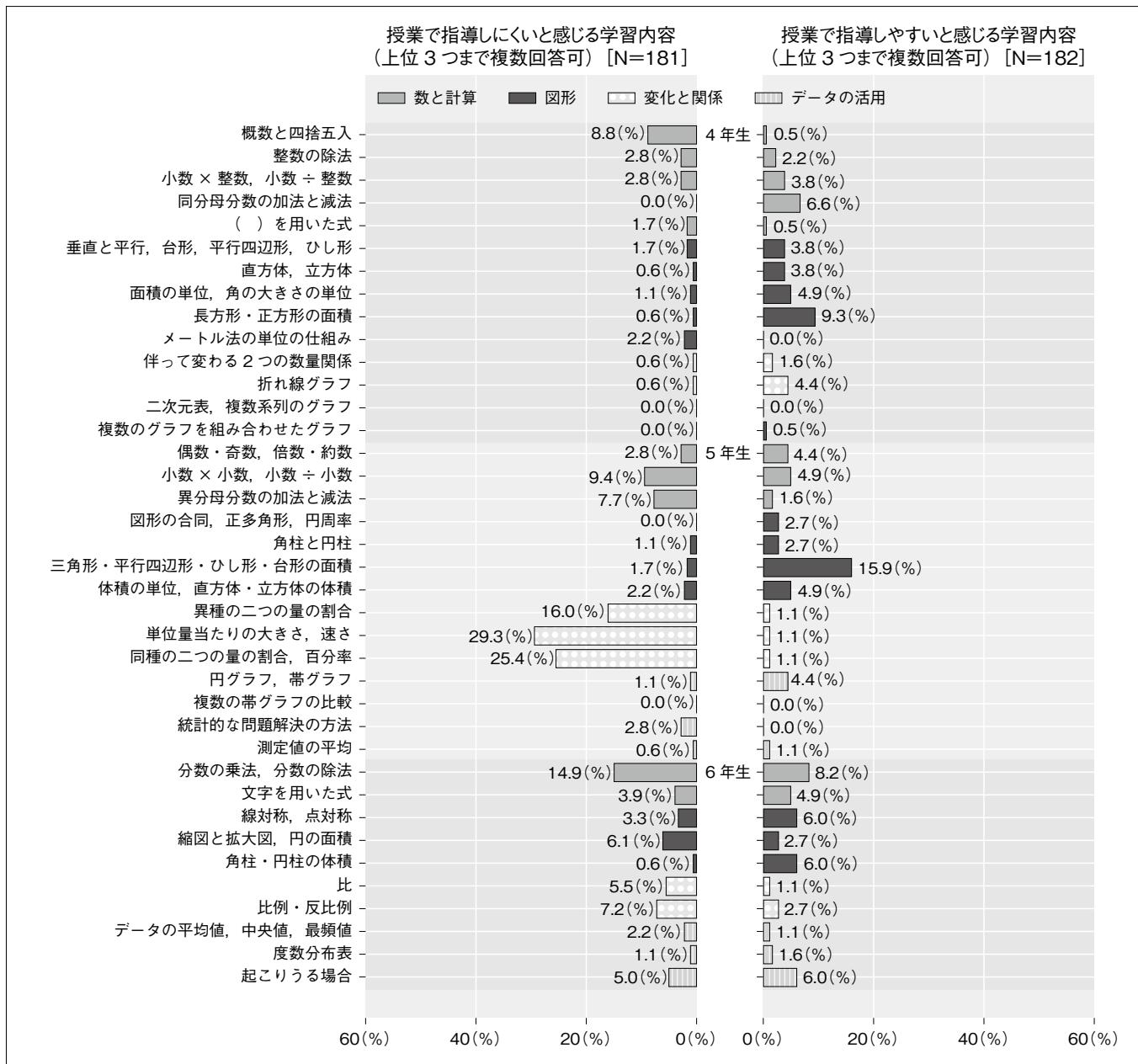
回答者数182人に対して、「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は6つあり、そのうち3年生の「整数の加法と減法」が16.5%、5年生の「三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積」が15.9%であった。指導しやすい理由として、「整数の加法と減法」では、回答者数30人のうち66.7%が「既習事項が身についている」を選択し、「三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積」では、回答者数29人のうち79.3%が「図や言葉を使って説明しやすい」を選択した。

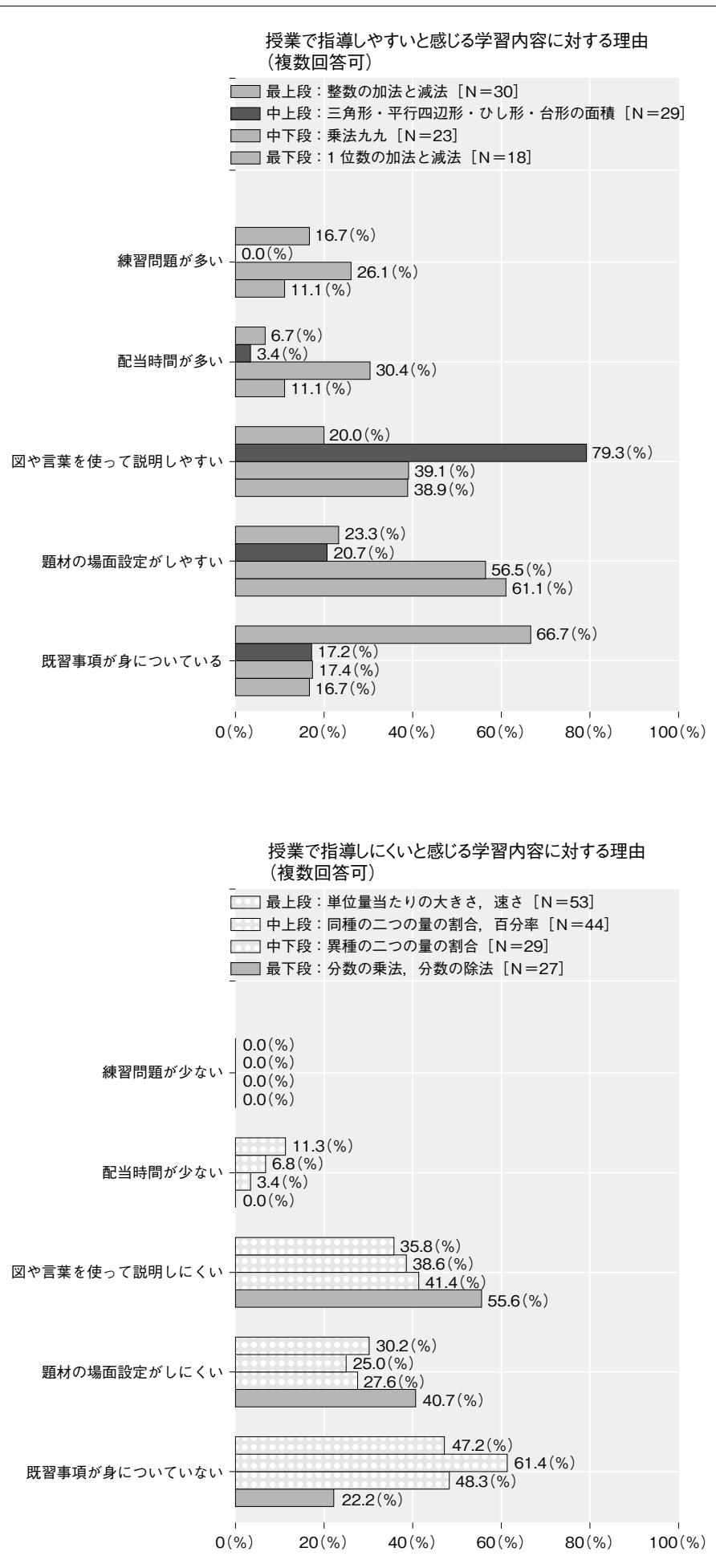
一方、回答者数181人に対して、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は6つあり、そのうち5年生の「単位量当たりの大きさ、速さ」が29.3%、同じく5年生の「同種の二つの量の割合、百分率」が25.4%であった。指導しにくい理由として、「単位量当たりの大きさ、速さ」では、回答者数53人のうち47.2%が「既習事項が身についていない」を選択し、「同種の二つの量の割合、百分率」では、回答者数44人のうち61.4%が「既習事項が身についていない」を選択した。

**Q 授業で指導しやすい（児童生徒が理解しやすい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（小学校算数）（D-2）**

**Q 授業で指導しにくい（児童生徒が理解しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（小学校算数）（D-3）**







※このページの棒グラフの模様は、33ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

## 小学校教諭が授業で指導しやすい・しにくないと感じる学習内容の分類方法

小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は182人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG1とする。

同様に、小学校教諭が授業で指導しにくいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は181人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG2とする。

また、各学習内容に対して、小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容あるいは授業で指導しにくいと感じる学習内容のどちらか1つを答えた回答者を対象に、二つの回答者数の違いを符号検定で検討した。その結果、有意水準5%の両側検定で、有意である学習内容群をG3とする。

これらの結果から、G1かつG3に属する次の学習内容を「小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容」とする。

- ・[1-a-1] (1年生、数と計算) 100までの数
- ・[1-a-2] (1年生、数と計算) 1位数の加法と減法
- ・[2-a-5] (2年生、数と計算) 乗法九九
- ・[3-a-1] (3年生、数と計算) 整数の加法と減法
- ・[4-b-4] (4年生、図形) 長方形・正方形の面積
- ・[5-b-3] (5年生、図形) 三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積

同様に、G2かつG3に属する次の学習内容を「小学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容」とする。

- ・[2-c-2] (2年生、測定) 時間の単位
- ・[3-c-2] (3年生、測定) 時刻や時間の計算
- ・[4-a-1] (4年生、数と計算) 概数と四捨五入
- ・[5-d-1] (5年生、変化と関係) 異種の二つの量の割合
- ・[5-d-2] (5年生、変化と関係) 単位量当たりの大きさ、速さ
- ・[5-d-3] (5年生、変化と関係) 同種の二つの量の割合、百分率

また、G1またはG2に属するがG3に属さない次の学習内容を「小学校の各教諭により指導のしやすさ・しにくさが分かれる学習内容」とする。

- ・[5-a-2] (5年生、数と計算) 小数×小数、小数÷小数
- ・[6-a-1] (6年生、数と計算) 分数の乗法、分数の除法

## 分析方法(参考)

小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容を判定するために、各学習内容の反応率pに対して帰無仮説を $p = 5\%$ 、対立仮説を5%に設定し、有意水準5%で二項検定を行った。ただし、回答者数は182人で、回答は3つまでの複数回答である。この検定の結果、帰無仮説が棄却された学習内容は〔1-a-1〕, 〔1-a-2〕, 〔2-a-5〕, 〔3-a-1〕, 〔6-a-1〕, 〔4-b-4〕, 〔5-b-3〕であり、これらの学習内容群G1は有意水準5%で少なくとも5%以上の回答率が見込まれる学習内容と考えられる。

G1 : 〔1-a-1〕, 〔1-a-2〕, 〔2-a-5〕, 〔3-a-1〕, 〔6-a-1〕, 〔4-b-4〕, 〔5-b-3〕

次に、小学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容を判定するために、上記と同様に各学習内容の反応率pに対して帰無仮説を $p = 5\%$ 、対立仮説を $p > 5\%$ に設定し、有意水準5%で二項検定を行った。ただし、回答者数は181人で、回答は3つまでの複数回答である。この検定の結果、帰無仮説が棄却された学習内容は〔4-a-1〕, 〔5-a-2〕, 〔6-a-1〕, 〔2-c-2〕, 〔3-c-2〕, 〔5-d-1〕, 〔5-d-2〕, 〔5-d-3〕であり、これらの学習内容群G2は有意水準5%で少なくとも5%以上の回答率が見込まれる学習内容と考えられる。

G2 : 〔4-a-1〕, 〔5-a-2〕, 〔6-a-1〕, 〔2-c-2〕, 〔3-c-2〕, 〔5-d-1〕, 〔5-d-2〕, 〔5-d-3〕

また、各学習内容に対して、小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容あるいは授業で指導しにくいと感じる学習内容のどちらか1つを答えた回答者を対象に、前者の回答者数Naと後者の回答者数Nbに対して帰無仮説を $Na = Nb$ 、対立仮説を $Na \neq Nb$ に設定し有意水準5%で符号検定を行った。この検定の結果、帰無仮説が棄却された学習内容は〔1-a-1〕, 〔1-a-2〕, 〔2-a-1〕, 〔2-a-3〕, 〔2-a-5〕, 〔3-a-1〕, 〔3-a-2〕, 〔3-a-4〕, 〔4-a-1〕, 〔4-a-4〕, 〔5-a-3〕, 〔2-b-1〕, 〔4-b-4〕, 〔5-b-3〕, 〔6-b-3〕, 〔2-c-2〕, 〔3-c-2〕, 〔4-d-2〕, 〔5-d-1〕, 〔5-d-2〕, 〔5-d-3〕, 〔6-d-1〕, 〔2-e-1〕, 〔3-e-1〕であり、これらの学習内容群G3は有意水準5%でどちらかに偏った回答率が見込まれる学習内容と考えられる。

G3 : 〔1-a-1〕, 〔1-a-2〕, 〔2-a-1〕, 〔2-a-3〕, 〔2-a-5〕, 〔3-a-1〕, 〔3-a-2〕, 〔3-a-4〕, 〔4-a-1〕, 〔4-a-4〕, 〔5-a-3〕, 〔2-b-1〕, 〔4-b-4〕, 〔5-b-3〕, 〔6-b-3〕, 〔2-c-2〕, 〔3-c-2〕, 〔4-d-2〕, 〔5-d-1〕, 〔5-d-2〕, 〔5-d-3〕, 〔6-d-1〕, 〔2-e-1〕, 〔3-e-1〕

これらの結果から、G1およびG3に属する学習内容を「小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容」S1、G2およびG3に属する学習内容を「小学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容」S2と考える。また、G1あるいはG2に属するが、G3に属しない学習内容を「判断が難しい学習内容」S3と考える。

S1 : 〔1-a-1〕, 〔1-a-2〕, 〔2-a-5〕, 〔3-a-1〕, 〔4-b-4〕, 〔5-b-3〕

S2 : 〔4-a-1〕, 〔2-c-2〕, 〔3-c-2〕, 〔5-d-1〕, 〔5-d-2〕, 〔5-d-3〕

S3 : 〔5-a-2〕, 〔6-a-1〕

以下の考察でも同様の方法で分析を行った。

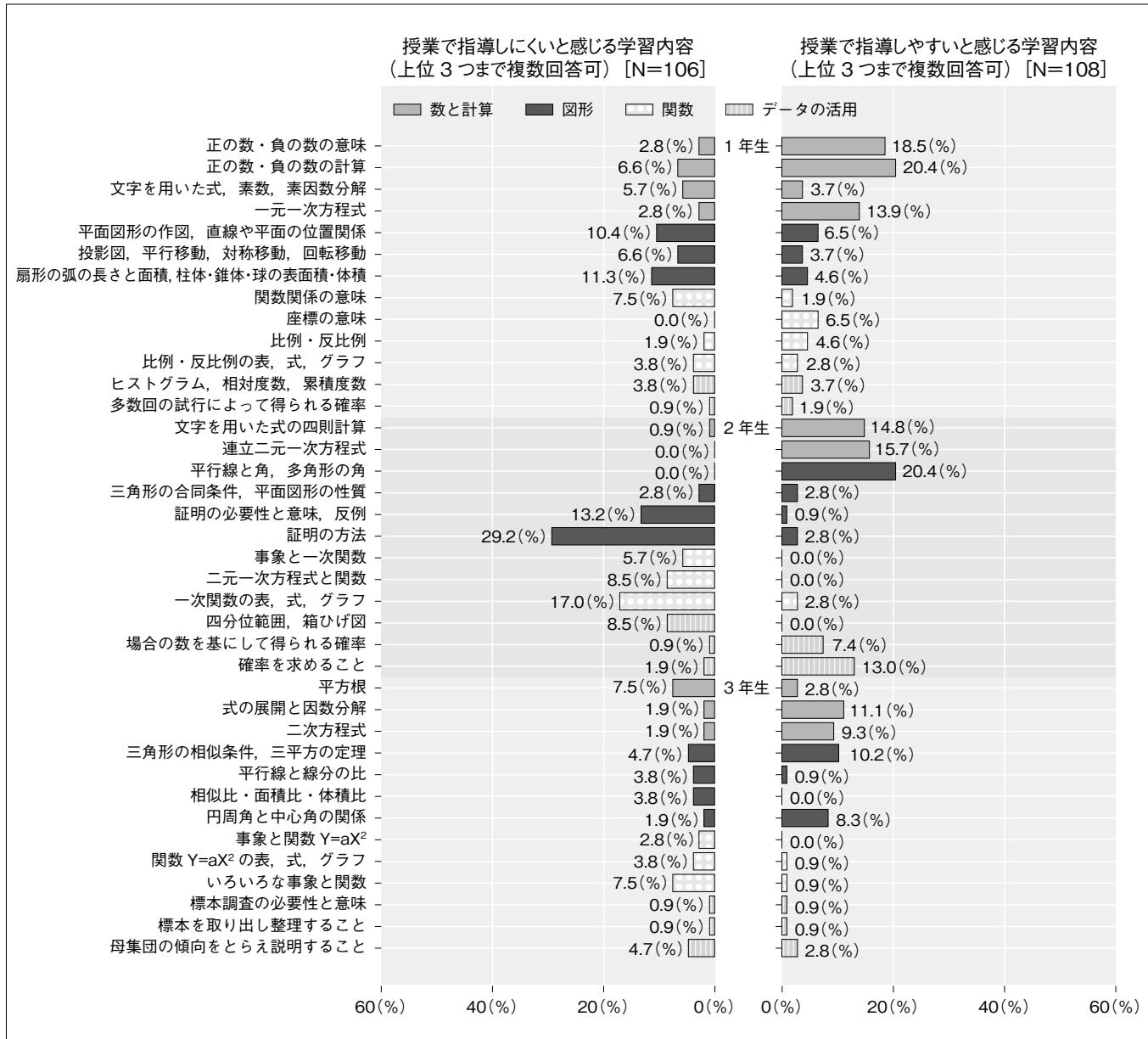
## DATA3-② 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について (中学校数学)

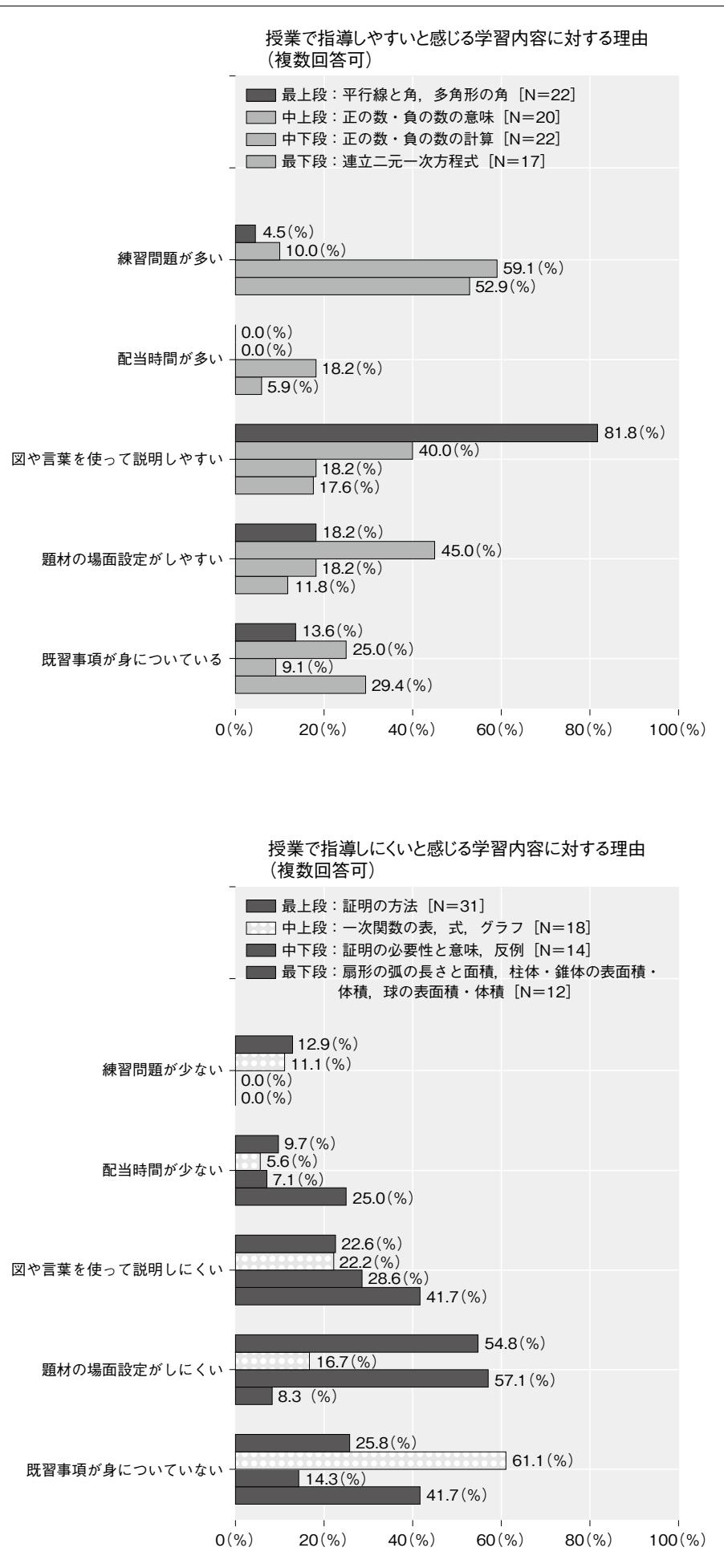
回答者数108人に対して、「授業で指導しやすいと感じる学習内容」は9つあり、そのうち2年生の「平行線と角、多角形の角」が20.4%、1年生の「正の数・負の数の意味」が18.5%であった。指導しやすい理由として、「平行線と角、多角形の角」では回答者数22人のうち81.8%が「図や言葉を使って説明しやすい」を選択し、「正の数・負の数の意味」では回答者数20人のうち45.0%が「題材の場面設定がしやすい」を選択した。

一方、回答者数106人に対して、「授業で指導しにくいと感じる学習内容」は3つあり、そのうち2年生の「証明の方法」が29.3%、「一次関数の表、式、グラフ」が17.0%であった。指導しにくい理由として、「証明の方法」では回答者数31人のうち54.8%が「題材の場面設定がしにくい」を選択し、「一次関数の表、式、グラフ」では回答者数18人のうち61.1%が「既習事項が身についていない」を選択した。

**Q 授業で指導しやすい（児童生徒が理解しやすい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（中学校数学）（D-2）**

**Q 授業で指導しにくい（児童生徒が理解しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（中学校数学）（D-3）**





※このページの棒グラフの模様は、38ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

## 中学校教諭が授業で指導しやすい・しにくないと感じる学習内容の分類方法

中学校教諭が授業で指導しやすいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は108人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG1とする。

同様に、中学校教諭が授業で指導しにくいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は106人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG2とする。

また、各学習内容に対して、中学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容あるいは授業で指導しにくいと感じる学習内容のどちらか1つを答えた回答者を対象に、2つの回答者数の違いを符号検定で検討した。その結果、有意水準5%の両側検定で、有意である学習内容群をG3とする。

これらの結果から、G1かつG3に属する次の学習内容を「中学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容」とする。

- ・[7-a-1] (1年生、数と式) 正の数・負の数の意味
- ・[7-a-2] (1年生、数と式) 正の数・負の数の計算
- ・[7-a-4] (1年生、数と式) 一元一次方程式
- ・[8-a-1] (2年生、数と式) 文字を用いた式の四則計算
- ・[8-a-2] (2年生、数と式) 連立二元一次方程式
- ・[9-a-2] (3年生、数と式) 式の展開と因数分解
- ・[9-a-3] (3年生、数と式) 二次方程式
- ・[8-b-1] (2年生、図形) 平行線と角、多角形の角
- ・[8-e-3] (2年生、データの活用) 確率を求めるこ

同様に、G2かつG3に属する次の学習内容を「中学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容」とする。

- ・[8-b-3] (2年生、図形) 証明の必要性と意味、反例
- ・[8-b-4] (2年生、図形) 証明の方法
- ・[8-d-3] (2年生、関数) 一次関数の表、式、グラフ

また、G1またはG2に属するがG3に属さない次の学習内容を「中学校の各教諭により指導のしやすさ・しにくさが分かれる学習内容」とする。

- ・[7-b-1] (1年生、図形) 平面図形の作図、直線や平面の位置関係
- ・[7-b-3] (1年生、図形) 扇形の弧の長さと面積、柱体・錐体の表面積・体積、球の表面積・体積
- ・[9-b-1] (3年生、図形) 三角形の相似条件、三平方の定理

### DATA3-③ 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について (小学校理科)

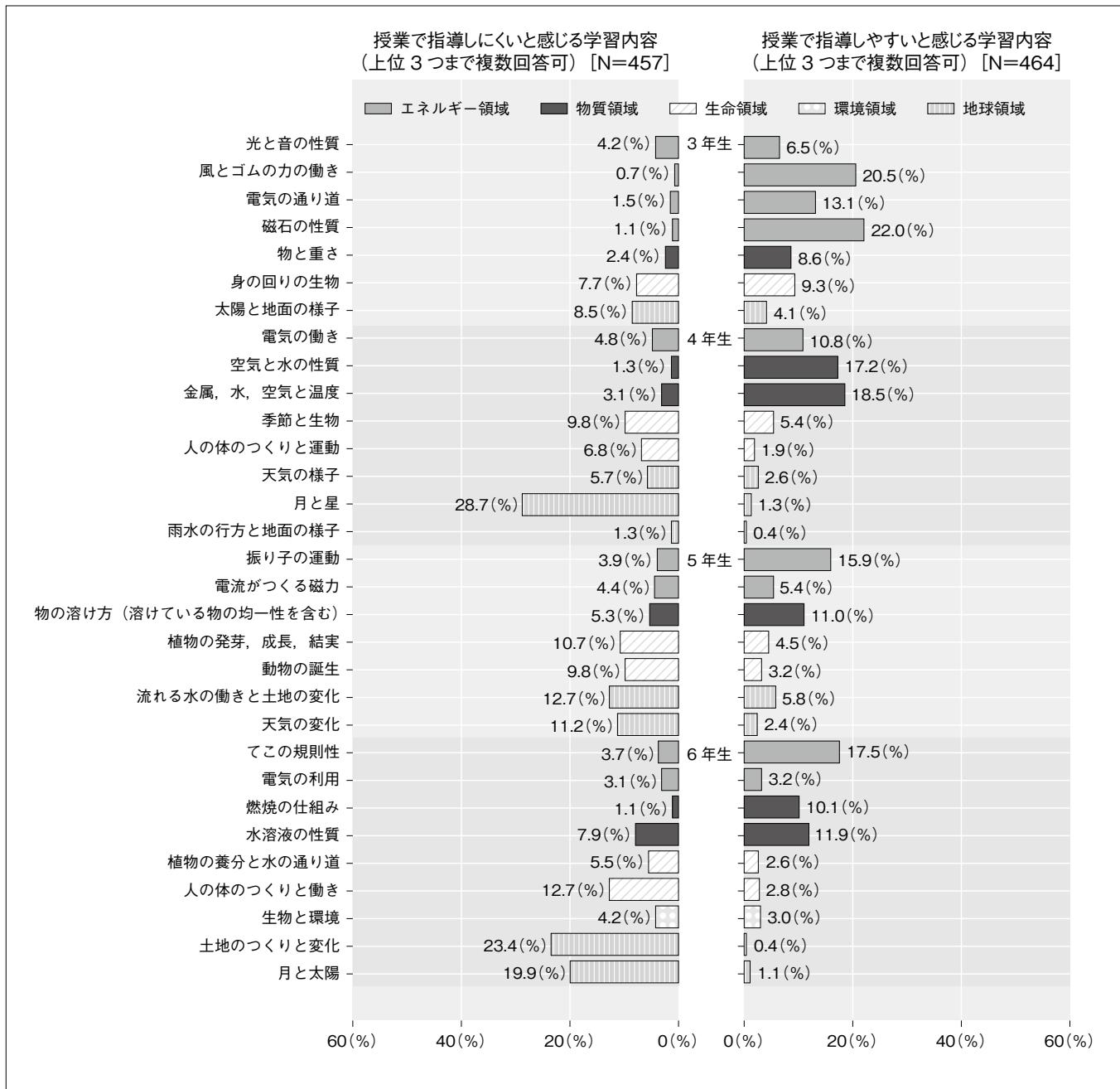
回答者数464人に対して「小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容」は11あり、そのうち3年生の「磁石の性質」が22.0%、「風とゴムの力の働き」が20.5%、4年生の「金属、水、空気と温度」が18.5%、6年生の「てこの規則性」が17.5%であった。指導しやすい理由として、「磁石の性質」では回答者数102人のうち85.3%が「実験観察が行いやすい」を選択した。「風とゴムの力の働き」では回答者数94人のうち79.8%が「実験観察が行いやすい」を選択し、41.5%が「学習の動機づけがしやすい」を選択した。「金属、水、空気と温度」では回答者数84人のうち79.8%が「実験観察が行いやすい」を選択した。「てこの規則性」では回答者数81人のうち92.6%が「実験観察が行いやすい」を選択した。したがって、エネルギー領域の「磁石の性質」、「風とゴムの力の働き」、「てこの規則性」および物質領域の「風とゴムの力の働き」の全てで、「実験観測が行いやすい」ことが授業で指導しやすいと感じる主な理由となっていることがわかる。

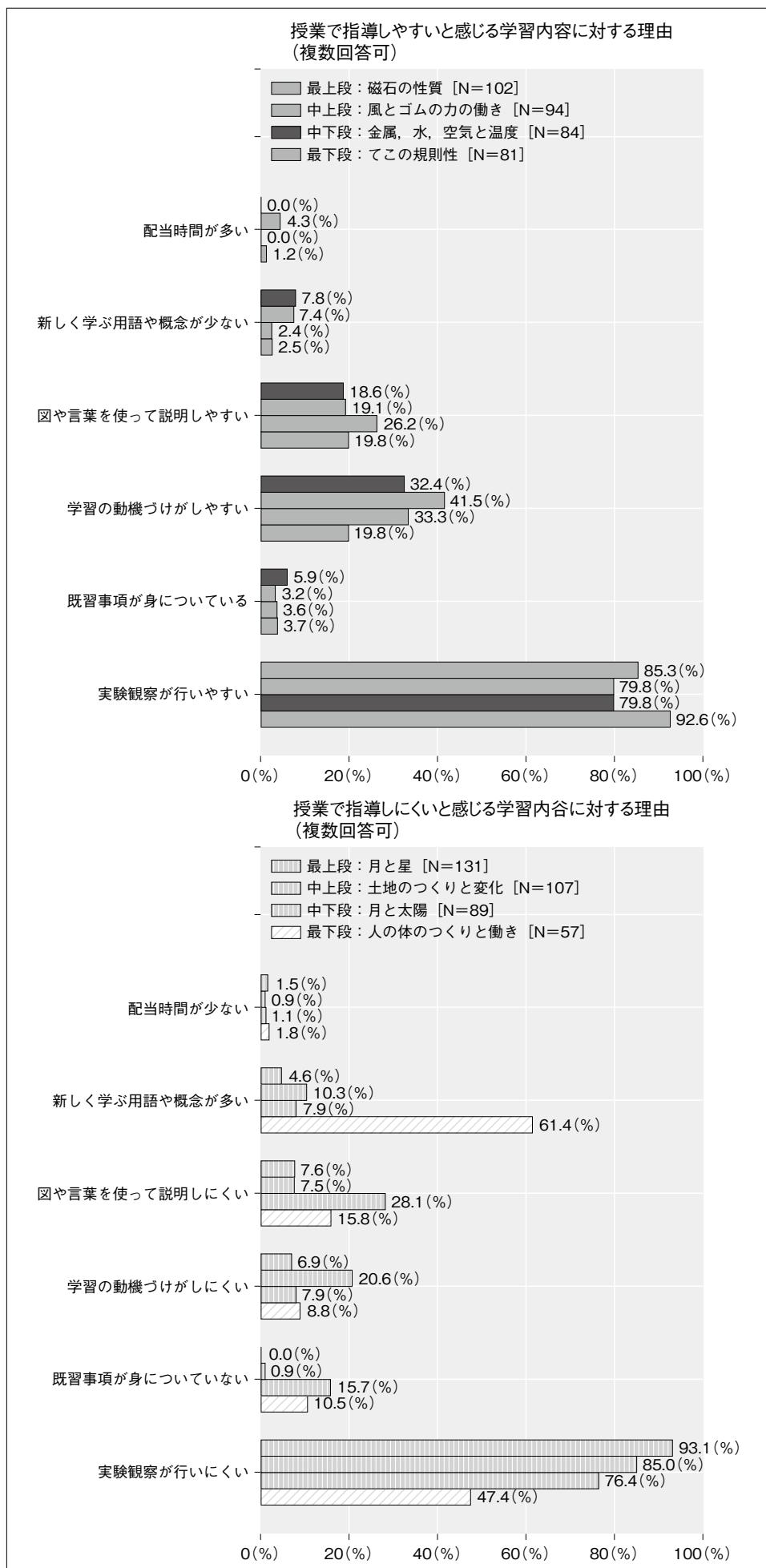
回答者数457人に対して「小学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容」は、8つあり、そのうち4年生の「月と星」が28.7%、6年生の「土地のつくりと変化」が23.4%、「月と太陽」が19.9%、4年生の「人の体のつくりと働き」が12.7%であった。指導しにくい理由として、「月と星」では回答者数131人のうち93.1%が「実験観察が行いにくい」を選択した。「土地のつくりと変化」では回答者数107人のうち85.0%が「実験観察が行いにくい」を選択した。「月と太陽」では回答者数89人のうち76.4%が「実験観察が行いにくい」を選択した。「人の体のつくりと働き」では回答者数57人のうち61.4%が「新しく学ぶ用語や概念が多い」を選択し、47.4%が「実験観察が行いにくい」を選択した。したがって、地球領域の「月と星」、「土地のつくりと変化」、「月と太陽」では、「実験観測が行いにくい」ことが授業で指導しにくいと感じる主な理由となっていることがわかる。一方、生命領域の「人の体のつくりと働き」では、「新しく学ぶ用語や概念が多い」ことが、「実験観測が行いにくい」以上に授業で指導しにくいと感じる理由となっていることがわかる。

「小学校の各教諭により指導のしやすさ・しにくさが分かれる学習内容」は4つあり、4年生の「水溶液の性質」、3年生の「身の回りの生物」、4年生の「季節と生物」、3年生の「太陽と地面の様子」であった。特に、「水溶液の性質」では、回答者数55人のうち74.5%が授業で指導しやすいと感じる理由として「実験観測が行いやすい」を選択したのに対して、回答者数36人のうち58.3%が授業で指導しにくいと感じる理由として「実験観測が行いにくい」を選択した。

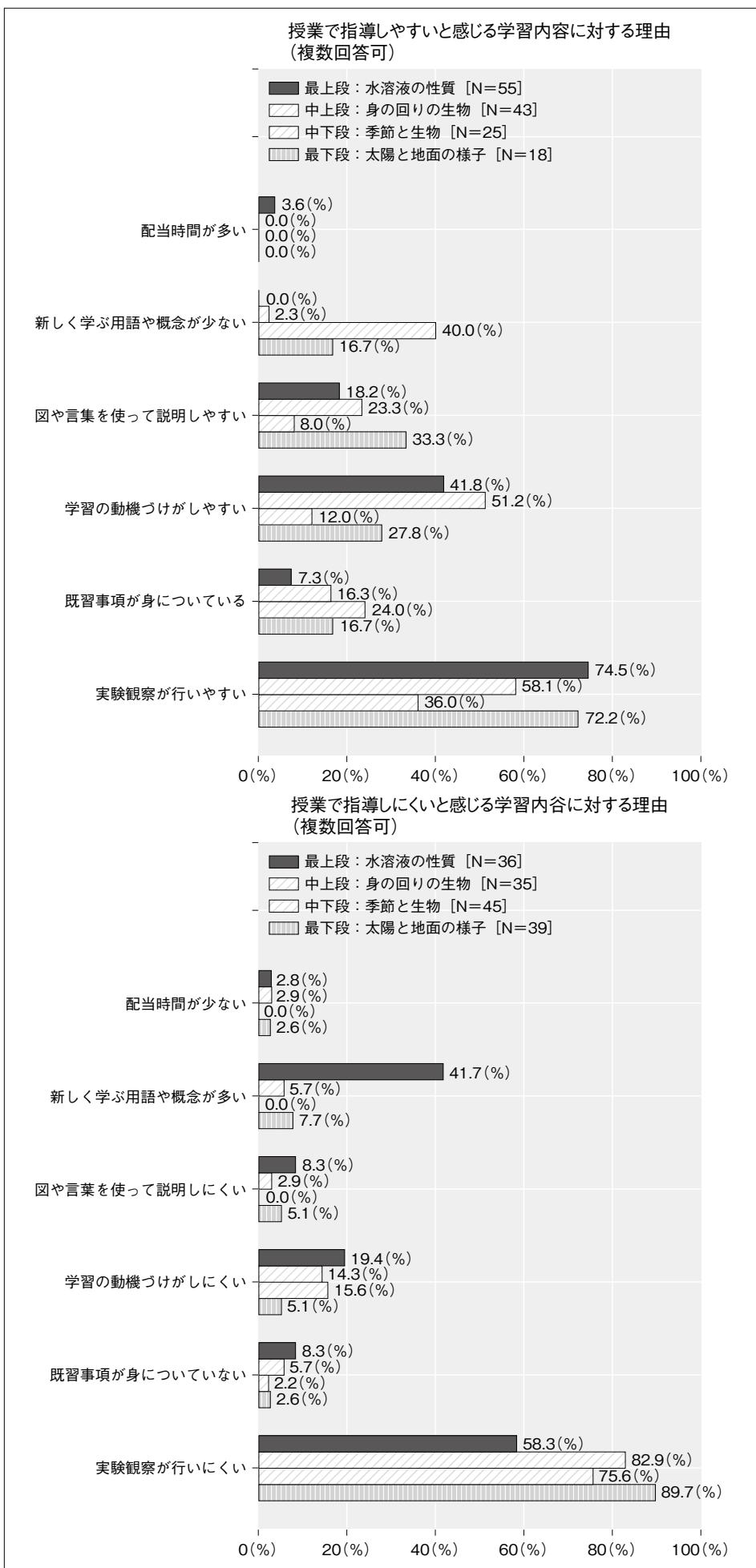
**Q 授業で指導しやすい（児童生徒が理解しやすい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（小学校理科）（D-4）**

**Q 授業で指導しにくい（児童生徒が理解しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（小学校理科）（D-5）**





※このページの棒グラフの模様は、42ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。



※このページの棒グラフの模様は、42ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

## 小学校教諭が授業で指導しやすい・しにくないと感じる学習内容の分類方法

小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は464人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準1%の片側検定で、有意である学習内容群をG1とする。

同様に、小学校教諭が授業で指導しにくいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は457人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準1%の片側検定で、有意である学習内容群をG2とする。

また、各学習内容に対して、小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容あるいは授業で指導しにくいと感じる学習内容のどちらか1つを答えた回答者を対象に、2つの回答数の違いを符号検定で検討した。その結果、有意水準1%の両側検定で、有意である学習内容群をG3とする。

これらの結果から、G1かつG3に属する次の学習内容を「小学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容」とする。

- ・(3年生、エネルギー領域) 風とゴムの力の働き
- ・(3年生、エネルギー領域) 電気の通り道
- ・(3年生、エネルギー領域) 磁石の性質
- ・(4年生、エネルギー領域) 電気の働き
- ・(5年生、エネルギー領域) 振り子の運動
- ・(6年生、エネルギー領域) てこの規則性
- ・(3年生、物質領域) 物と重さ
- ・(4年生、物質領域) 空気と水の性質
- ・(4年生、物質領域) 金属、水、空気と温度
- ・(5年生、物質領域) 物の溶け方（溶けている物の均一性を含む）
- ・(6年生、物質領域) 燃焼の仕組み

同様に、G2かつG3に属する次の学習内容を小学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容とする。

- ・(5年生、生命領域) 植物の発芽、成長、結実
- ・(5年生、生命領域) 動物の誕生
- ・(6年生、生命領域) 人の体のつくりと働き
- ・(4年生、地球領域) 月と星
- ・(5年生、地球領域) 流れる水の働きと土地の変化
- ・(5年生、地球領域) 天気の変化
- ・(6年生、地球領域) 土地のつくりと変化
- ・(6年生、地球領域) 月と太陽

また、G1またはG2に属するがG3に属さない次の学習内容を小学校の各教諭により指導のしやすさ・しにくさが分かれる学習内容とする。

- ・(6年生、物質領域) 水溶液の性質
- ・(3年生、生命領域) 身の回りの生物
- ・(4年生、生命領域) 季節と生物
- ・(3年生、地球領域) 太陽と地面の様子

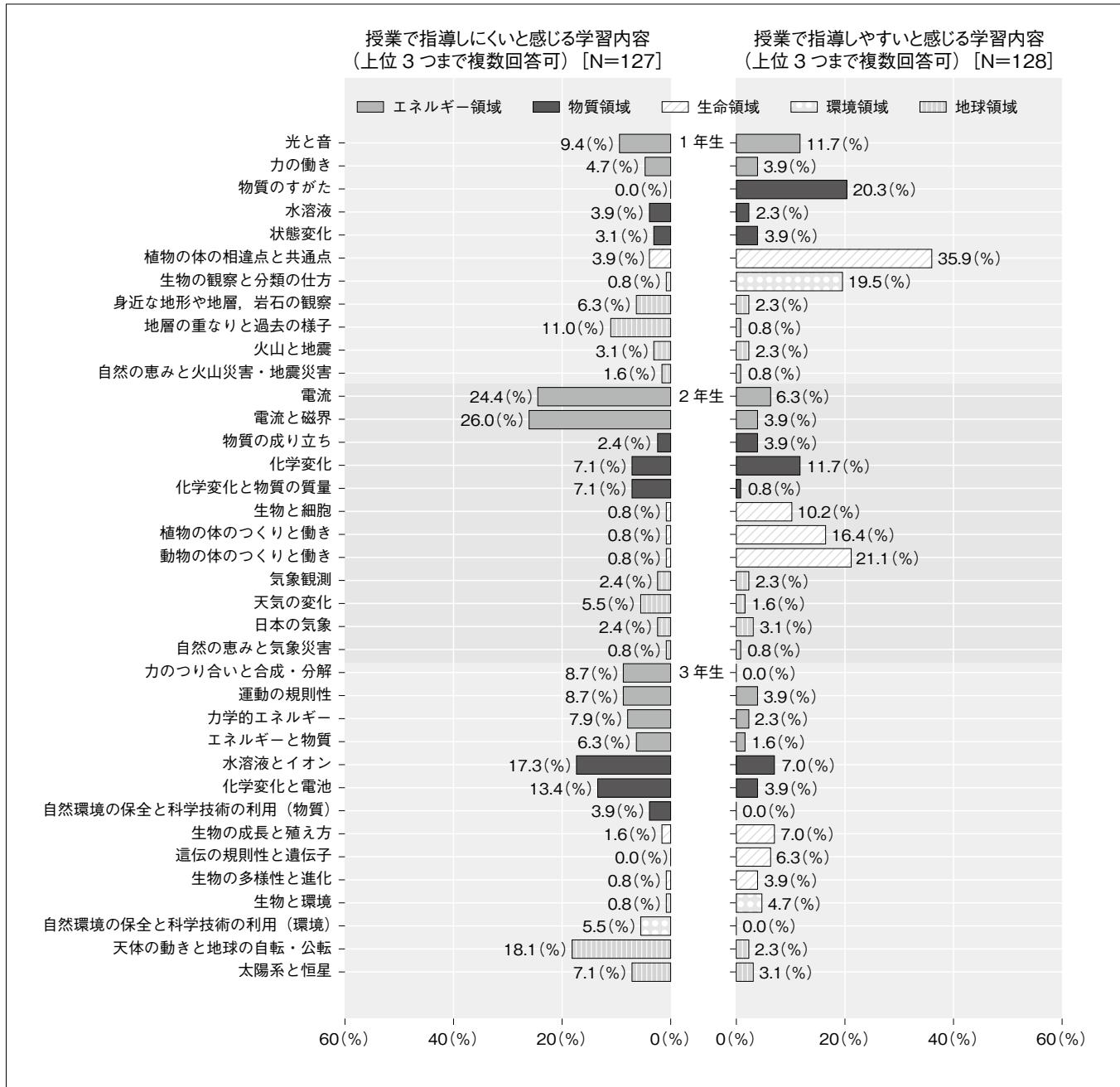
#### DATA3-④ 授業で指導しやすいと感じる学習内容と指導しにくいと感じる学習内容について (中学校理科)

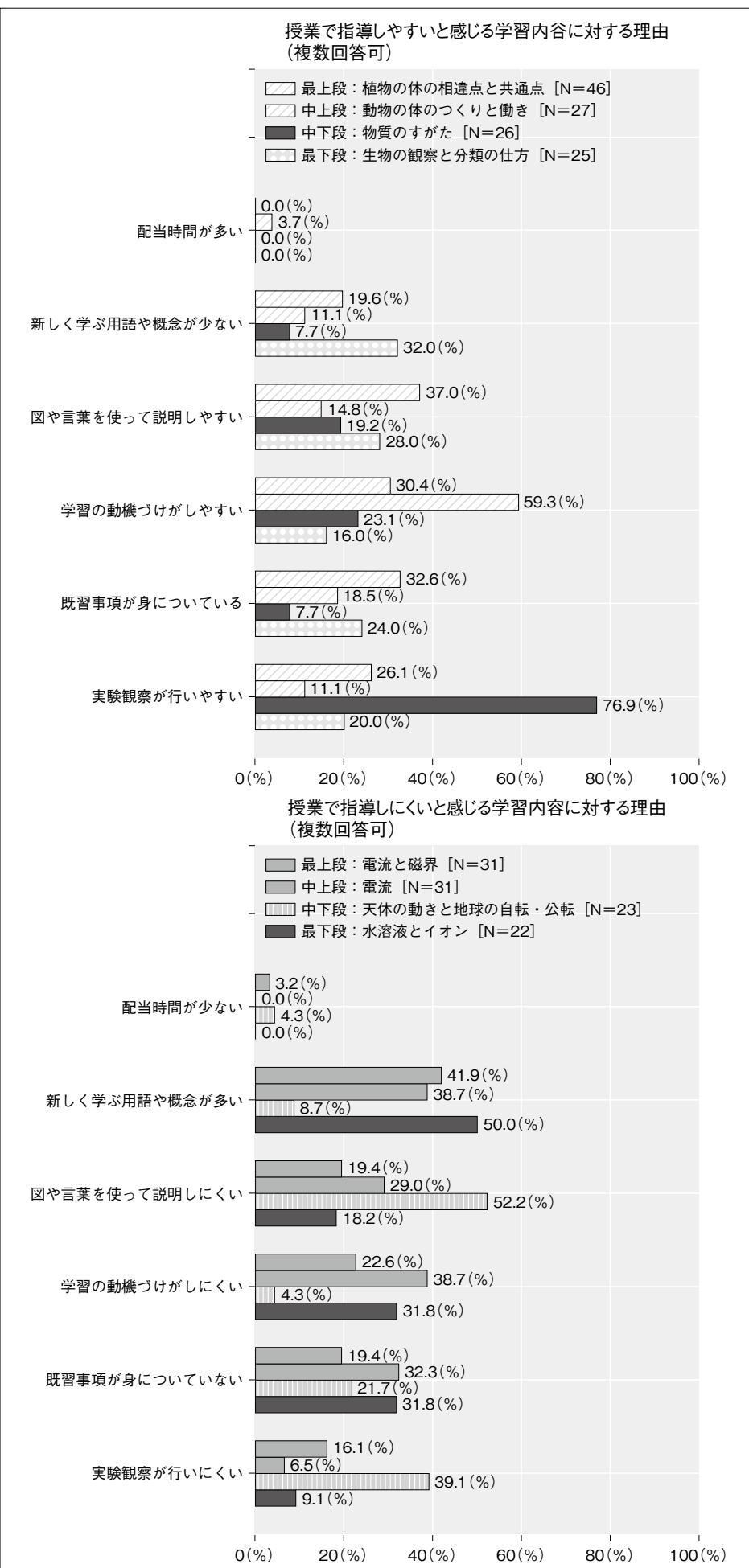
回答者数128人に対して「中学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容」は6つあり、そのうち1年生の「植物の体の相違点と共通点」が35.9%，2年生の「動物の体のつくりと動き」が21.1%，1年生の「物質のすがた」が20.3%，「生物の観察と分類の仕方」が19.5%であった。指導しやすい理由として、「動物の体のつくりと動き」では回答者数27人のうち59.3%が「学習の動機づけがしやすい」を選択した。「物質のすがた」では回答者数26人のうち76.9%が「実験観察が行いやすい」を選択した。「植物の体の相違点と共通点」では回答者数46人のうち過半数が選んだ授業で指導しやすいと感じる理由はなかった。「生物の観察と分類の仕方」でも25人のうち過半数が選んだ授業で指導しやすいと感じる理由はなかった。したがって、生命領域の「植物の体の相違点と共通点」と環境領域の「生物の観察と分類の仕方」では、授業で指導しやすいと感じる理由としてさまざまな理由が考えられる。物質領域の「物質のすがた」では「実験観察が行いやすい」ことが授業で指導しやすいと感じる主な理由となっていることがわかる。生命領域の「動物の体のつくりと動き」では「学習の動機づけがしやすい」ことが授業で指導しやすいと感じる主な理由となっていることがわかる。

回答者数127人に対して「中学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容」は6つあり、そのうち2年生の「電流と磁界」が26.0%，「電流」が24.4%，3年生の「天体の動きと地球の自転・公転」が18.1%，「水溶液とイオン」が17.3%であった。指導しにくい理由として、「天体の動きと地球の自転・公転」では回答者数23人のうち52.2%が「図や言葉を使って説明しにくい」を選択し、39.1%が「実験観察が行いにくい」を選択した。「水溶液とイオン」では回答者数22人のうち50.0%が「新しく学ぶ用語や概念が多い」を選択し、31.8%が「学習の動機づけがしにくい」および「既習事項が身についていない」を選択した。また、「電流と磁界」と「電流」では、回答者数31人のうち過半数が選択した授業で指導しにくいと感じる理由はなかつた。

**Q 授業で指導しやすい（児童生徒が理解しやすい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（中学校理科）（D-4）**

**Q 授業で指導しにくい（児童生徒が理解しにくい）と感じる学習内容とその理由を挙げてください。（中学校理科）（D-5）**





※このページの棒グラフの模様は、47ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

## 中学校教諭が授業で指導しやすい・しにくないと感じる学習内容の分類方法

中学校教諭が授業で指導しやすいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は128人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG1とする。

同様に、中学校教諭が授業で指導しにくいと感じる各学習内容の反応率に対して5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は127人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG2とする。

また、各学習内容に対して、中学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容あるいは授業で指導しにくいと感じる学習内容のどちらか1つを答えた回答者を対象に、2つの回答数の違いを符号検定で検討した。その結果、有意水準5%の両側検定で、有意である学習内容群をG3とする。

これらの結果から、G1かつG3に属する次の学習内容を「中学校教諭が授業で指導しやすいと感じる学習内容」とする。

- ・(1年生、物質領域) 物質のすがた
- ・(1年生、生命領域) 植物の体の相違点と共通点
- ・(2年生、生命領域) 生物と細胞
- ・(2年生、生命領域) 植物の体のつくりと働き
- ・(2年生、生命領域) 動物の体のつくりと働き
- ・(1年生、環境領域) 生物の観察と分類の仕方

同様に、G2かつG3に属する次の学習内容を中学校教諭が授業で指導しにくいと感じる学習内容とする。

- ・(2年生、エネルギー領域) 電流
- ・(2年生、エネルギー領域) 電流と磁界
- ・(3年生、物質領域) 水溶液とイオン
- ・(3年生、物質領域) 化学変化と電池
- ・(1年生、地球領域) 地層の重なりと過去の様子
- ・(3年生、地球領域) 天体の動きと地球の自転・公転

また、G1またはG2に属するがG3に属さない次の学習内容を中学校の各教諭により指導のしやすさ・しにくさが分かれる学習内容とする。

- ・(1年生、エネルギー領域) 光と音
- ・(2年生、物質領域) 化学変化

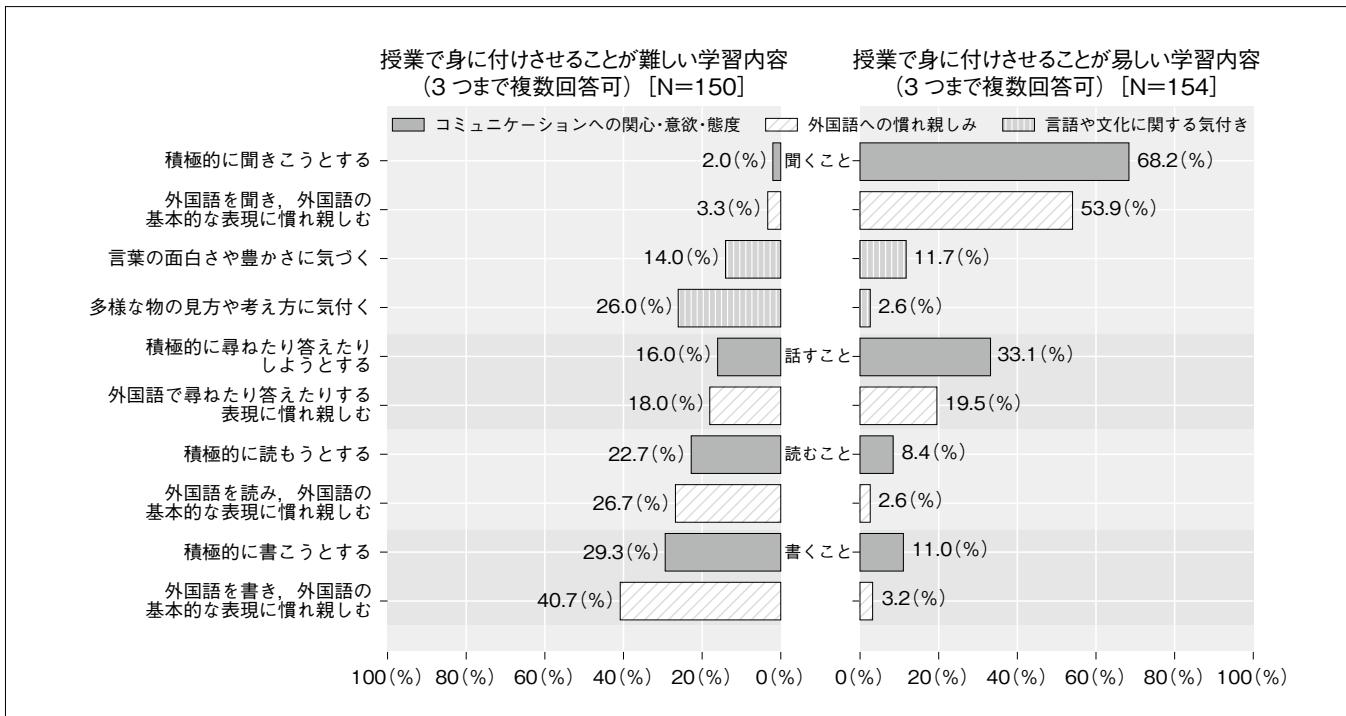
### DATA3-⑤ 授業で身に付けさせることが易しいと感じる学習内容と身に付けさせることが難しいと感じる学習内容について（小学校外国語）

回答者数154人に対して「小学校教諭が授業で身に付けさせることが易しい感じる学習内容」は3つあり、「積極的に聞こうとする」が68.2%、「外国語を聞き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」が53.9%であった。その理由として、「積極的に聞こうとする」では回答者数105人のうち、49.5%が教師の立場で「具体的な場面や状況の設定がしやすい」を選択し、46.7%が児童・生徒の立場で「言語活動に楽しんで取り組める」を選択した。「外国語を聞き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」では回答者数82人のうち、41.5%が教師の立場で「言語活動に取り組ませやすい」を選択し、47.6%が児童・生徒の立場で「言語活動に楽しんで取り組める」を選択した。

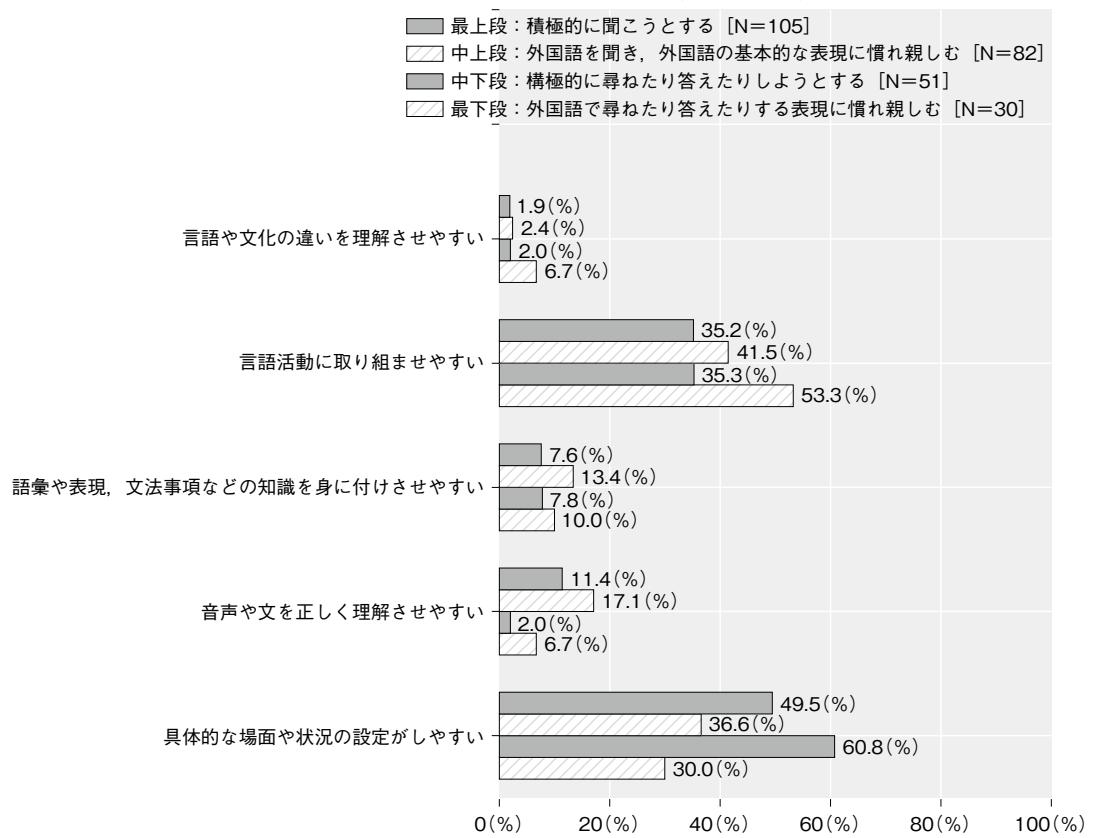
回答者数150人に対して「小学校教諭が授業で身に付けさせることが難しいと感じる学習内容」は5つあり、そのうち「外国語を書き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」が40.7%、「積極的に書こうとする」が29.3%であった。その理由として、「外国語を書き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」では回答者数61人のうち、54.1%が教師の立場で「語彙や表現、文法事項などの知識を身に付けさせにくい」を選択し、34.4%が児童・生徒の立場で「取り組むために事前に準備が必要」を選択した。「外国語を読み、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」では回答者数39人の48.7%が教師の立場で「語彙や表現、文法事項などの知識を身に付けさせにくい」および「音声や文を正しく理解させにくい」を選択し、33.3%が児童・生徒の立場で「楽しい言語活動が難しい」および「取り組むために事前に準備が必要」を選択した。

**Q 授業で身に付けさせる（児童・生徒が身に付ける）ことが易しいと感じる学習内容とその理由を挙げてください。（3つまで、複数回答可）（小学校外国語）（D-9）**

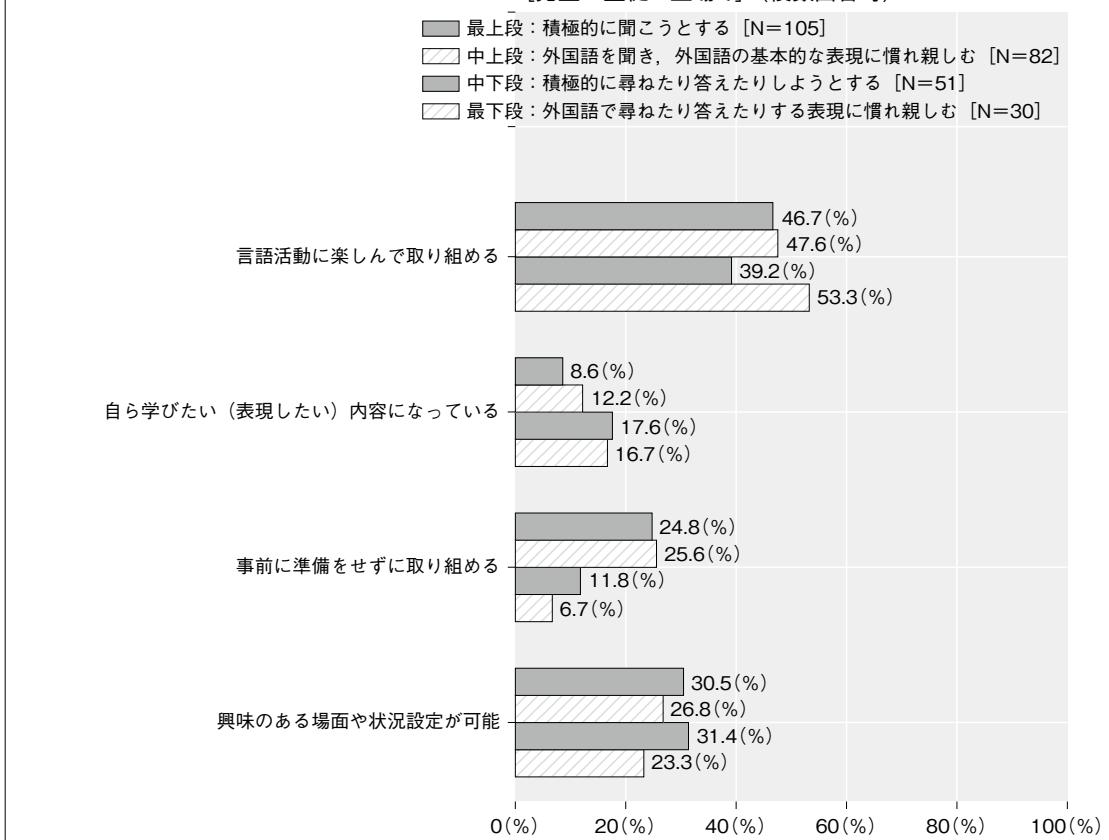
**Q 授業で身に付けさせる（児童・生徒が身に付ける）ことが難しいと感じる学習内容とその理由を挙げてください。（3つまで、複数回答可）（小学校外国語）（D-10）**



授業で身に付けさせが易い学習内容に対する理由  
[教師の立場で] (複数回答可)



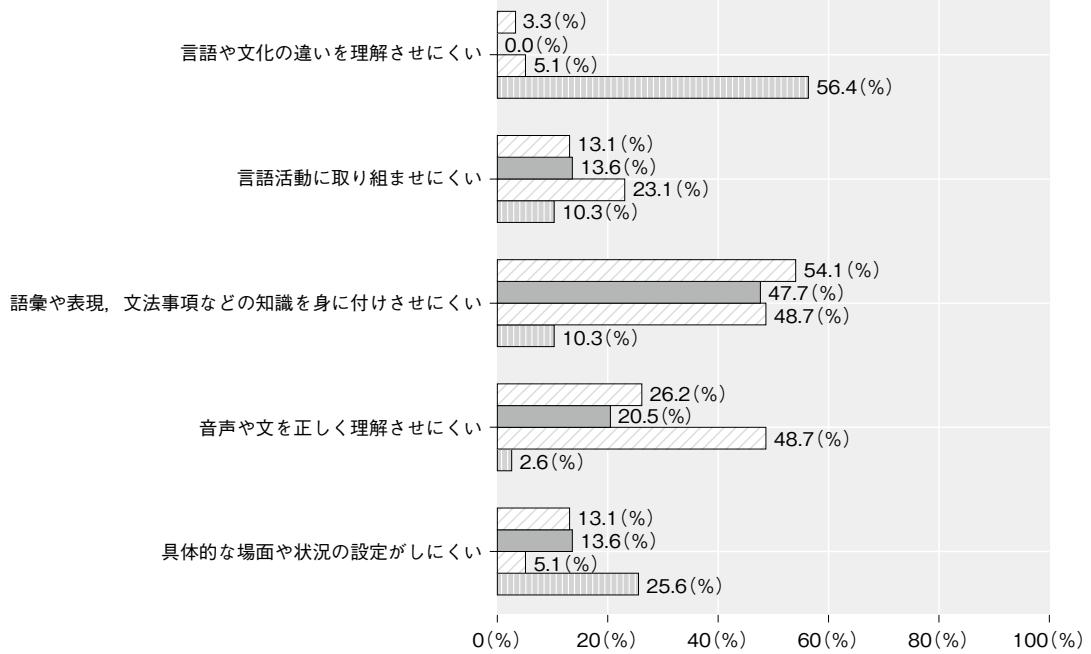
授業で身に付けさせが易い学習内容に対する理由  
[児童・生徒の立場で] (複数回答可)



※このページの棒グラフの模様は、50ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

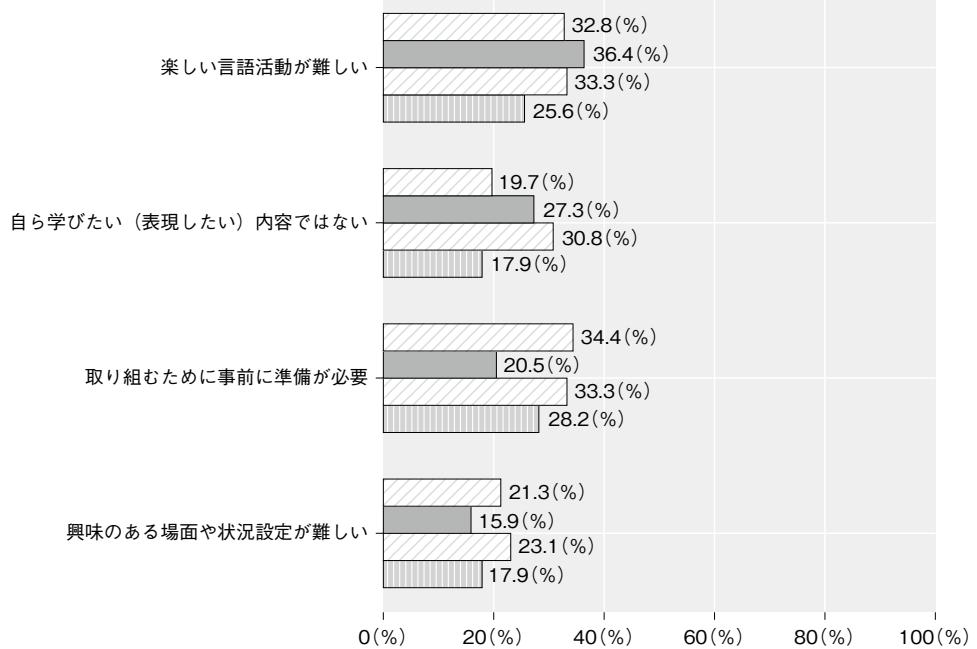
授業で身に付けさせが難しい学習内容に対する理由  
[教員の立場で] (複数回答可)

□ 最上段：外国語を書き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ [N=61]  
 ■ 中上段：積極的に読もうとする [N=44]  
 △ 中下段：外国語を読み、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ [N=39]  
 ▨ 最下段：多様な物の見方や考え方方に気付く [N=39]



授業で身に付けさせが難しい学習内容に対する理由  
[児童・生徒の立場で] (複数回答可)

□ 最上段：外国語を書き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ [N=61]  
 ■ 中上段：積極的に読もうとする [N=44]  
 △ 中下段：外国語を読み、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ [N=39]  
 ▨ 最下段：多様な物の見方や考え方方に気付く [N=39]



※このページの棒グラフの模様は、50ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

## **小学校教諭が授業で身に付けさせることが易しい・難しいと感じる学習内容の分類方法**

小学校教諭が授業で身に付けさせることが易しいと感じる各学習内容の反応率に対して、15%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は154人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG1とする。

同様に、小学校教諭が授業で身に付けさせることが難しいと感じる各学習内容の反応率に対して、15%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は150人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG2とする。

また、各学習内容に対して、小学校教諭が授業で身に付けさせることが易しいと感じる学習内容あるいは授業で身に付けさせることが難しいと感じる学習内容のどちらか1つを答えた回答者を対象に、2つの回答数の違いを符号検定で検討した。その結果、有意水準5%の両側検定で、有意である学習内容群をG3とする。

これらの結果から、G1かつG3に属する次の学習内容を「小学校教諭が授業で身に付けさせることが易しいと感じる学習内容」とする。

- ・(聞くこと、コミュニケーションへの関心・意欲・態度) 積極的に聞こうとする
- ・(話すこと、コミュニケーションへの関心・意欲・態度) 積極的に尋ねたり答えたりしようとする
- ・(聞くこと、外国語への慣れ親しみ) 外国語を聞き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ

同様に、G2かつG3に属する次の学習内容を「小学校教諭が授業で身に付けさせることが難しいと感じる学習内容」とする。

- ・(読むこと、コミュニケーションへの関心・意欲・態度) 積極的に読もうとする
- ・(書くこと、コミュニケーションへの関心・意欲・態度) 積極的に書こうとする
- ・(読むこと、外国語への慣れ親しみ) 外国語を読み、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ
- ・(書くこと、外国語への慣れ親しみ) 外国語を書き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ
- ・(聞くこと、言語や文化に関する気付く) 多様な物の見方や考え方に対する気付く

ここでは、G1またはG2に属するがG3に属さない学習内容は存在しない。

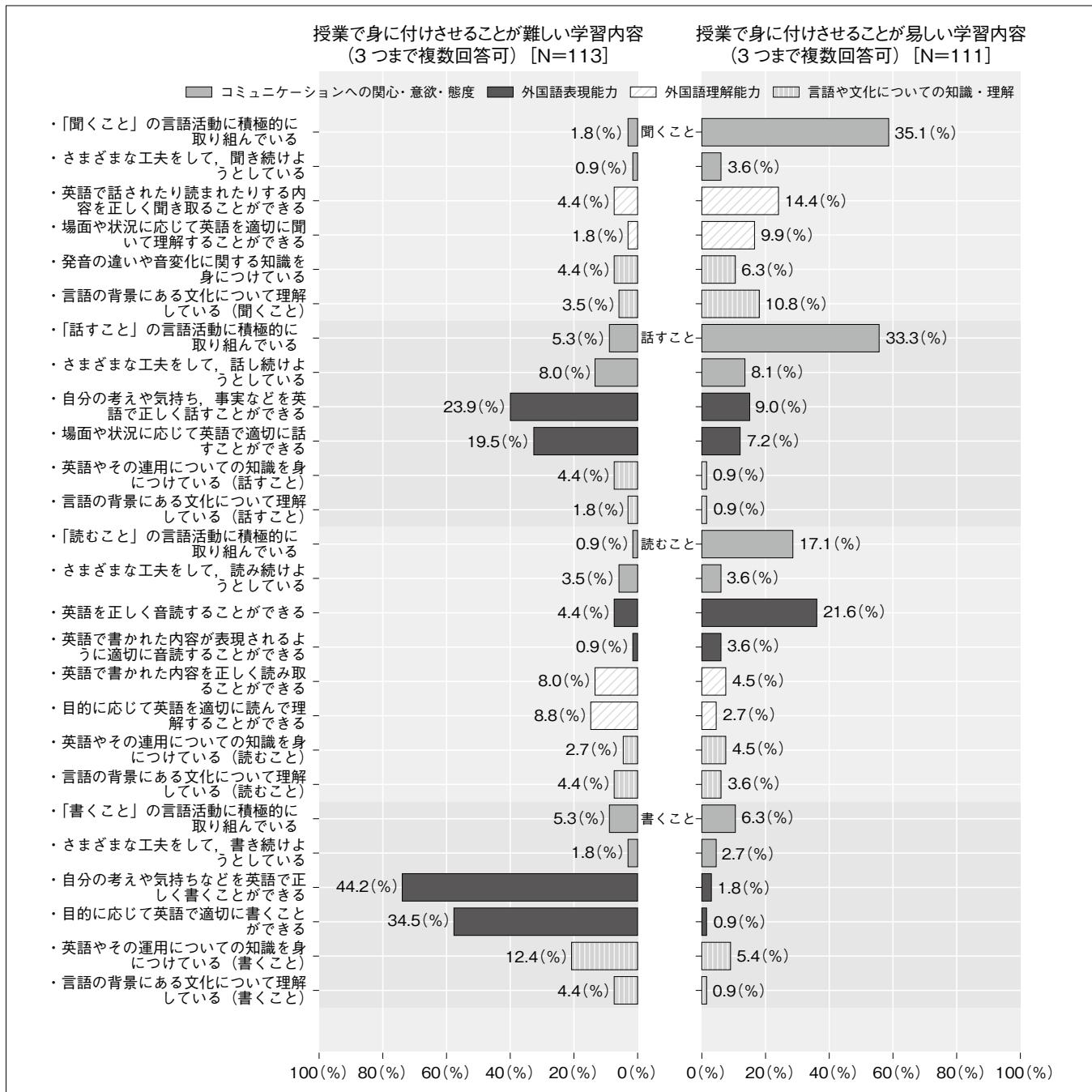
### DATA3-⑥ 授業で身に付けさせることが易しい感じる学習内容と身に付けさせることが難しいと感じる学習内容について（中学校外国語）

回答者数111人に対して「中学校教諭が授業で身に付けさせることが易しいと感じる学習内容」は6つあり、そのうち「『聞くこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」が35.1%，「『話すこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」が33.3%であった。その理由として、「『聞くこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」では回答者数39人のうち35.9%が教師の立場で「具体的な場面や状況の設定がしやすい」を選択し、回答者数39人の41.0%が児童・生徒の立場で「事前に準備をせずに取り組める」を選択した。「『話すこと』の言語活動に積極的に取り組んでいる」では回答者数37人のうち、51.4%が教師の立場で「言語活動に取り組ませやすい」を選択し、56.8%が児童・生徒の立場で「言語活動に楽しんで取り組める」を選択した。

回答者数113人に対して「中学校教諭が授業で身に付けさせることが難しいと感じる学習内容」は4つあり、そのうち「自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる」が44.2%，「目的に応じて英語で適切に書くことができる」が34.5%であった。その理由として、「自分の考え方や気持ちなどを英語で正しく書くことができる」では回答者数49人のうち、73.5%が教師の立場で「語彙や表現、文法事項などの知識を身に付けさせにくい」を選択し、65.3%が児童・生徒の立場で「取り組むために事前に準備が必要」を選択した。「目的に応じて英語で適切に書くことができる」では回答者数39人のうち、48.7%が教師の立場で「語彙や表現、文法事項などの知識を身に付けさせにくい」を選択し、51.3%が児童・生徒の立場で「取り組むために事前に準備が必要」を選択した。

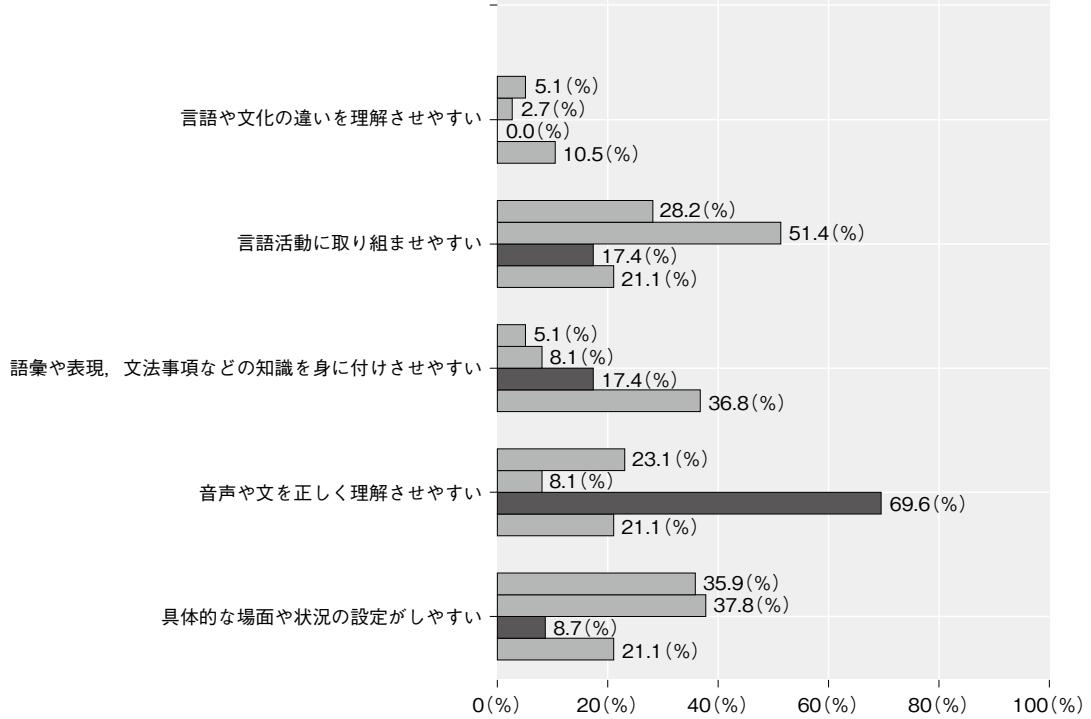
**Q 授業で身に付けさせる（児童・生徒が身に付ける）ことが易しいと感じる学習内容とその理由を挙げてください。（3つまで、理由は複数回答可）（中学校外国語）（D-9）**

**Q 授業で身に付けさせる（児童・生徒が身に付ける）ことが難しいと感じる学習内容とその理由を挙げてください。（3つまで、理由は複数回答可）（中学校外国語）（D-10）**



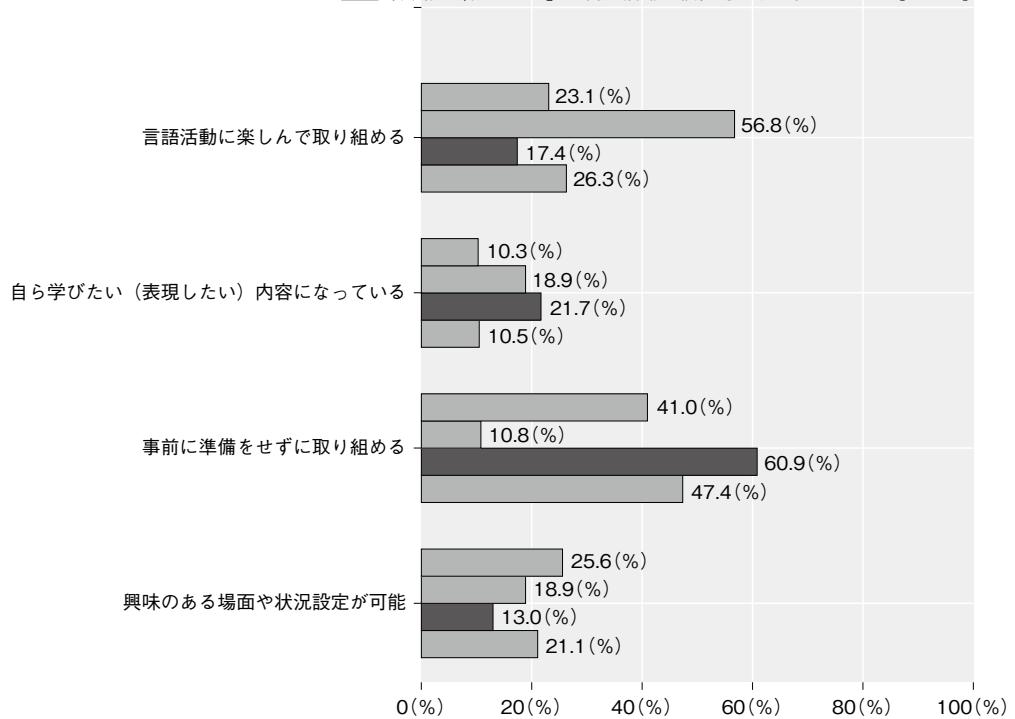
授業で身に付けさせが易い学習内容に対する理由  
[教師の立場で] (複数回答可)

■ 最上段：「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる [N=39]  
 ■ 中上段：「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる [N=37]  
 ■ 中下段：英語を正しく音読することができる [N=23]  
 ■ 最下段：「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる [N=19]



授業で身に付けさせが易い学習内容に対する理由  
[児童・生徒の立場で] (複数回答可)

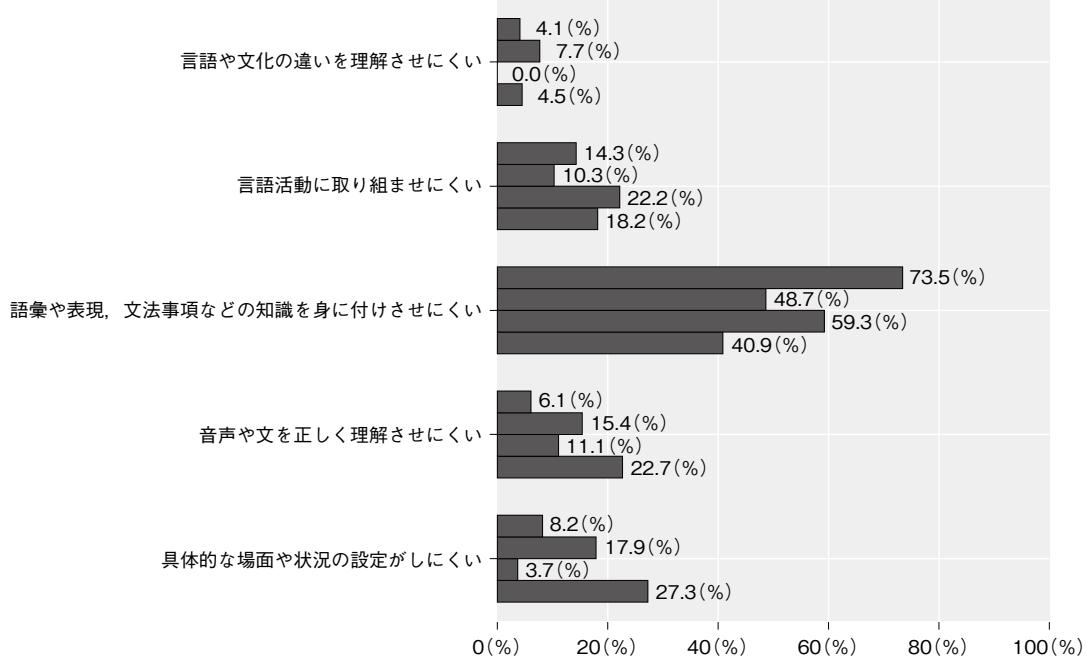
■ 最上段：「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる [N=39]  
 ■ 中上段：「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる [N=37]  
 ■ 中下段：英語を正しく音読することができる [N=23]  
 ■ 最下段：「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる [N=19]



※このページの棒グラフの模様は、55ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

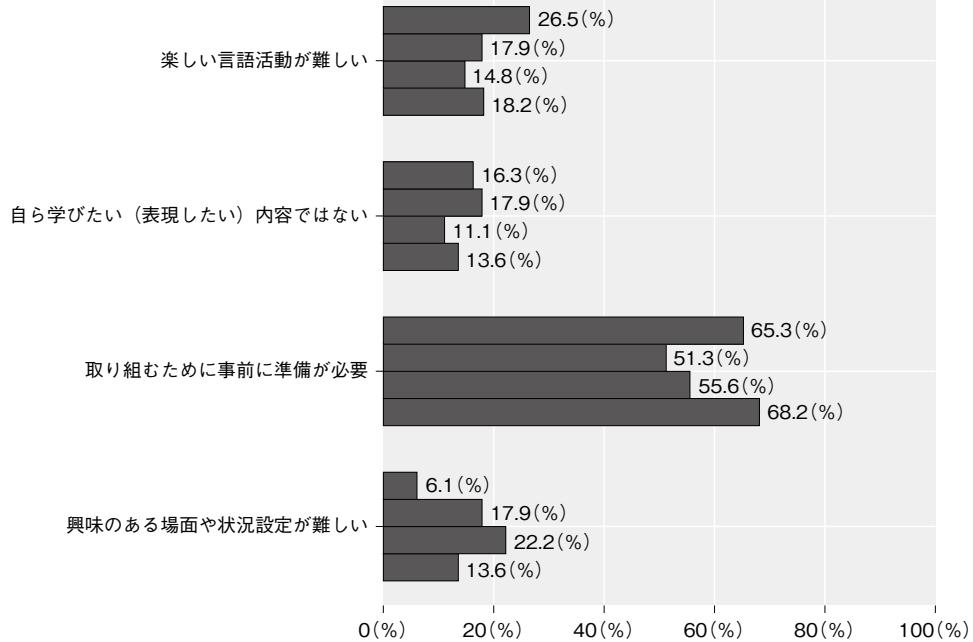
授業で身に付けさせが難しい学習内容に対する理由  
[教師の立場で] (複数回答可)

- 最上段：自分の考え方や気持ちなどを英語で正しく書くことができる [N=49]
- 中上段：目的に応じて英語で適切に書くことができる [N=39]
- 中下段：自分の考え方や気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる [N=27]
- 最下段：場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる [N=22]



授業で身に付けさせが難しい学習内容に対する理由  
[児童・生徒の立場で] (複数回答可)

- 最上段：自分の考え方や気持ちなどを英語で正しく書くことができる [N=49]
- 中上段：目的に応じて英語で適切に書くことができる [N=39]
- 中下段：自分の考え方や気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる [N=27]
- 最下段：場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる [N=22]



※このページの棒グラフの模様は、55ページのグラフの凡例に記載されている領域の模様に対応しています。

## 中学校教諭が授業で身に付けさせることが易しい・難しいと感じる学習内容の分類方法

中学校教諭が授業で身に付けさせることが易しいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は111人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG1とした。

同様に、中学校教諭が授業で身に付けさせることが難しいと感じる各学習内容の反応率に対して、5%を超えるかを二項検定で検討した。ただし、回答者数は113人で、回答は3つまでの複数回答である。その結果、有意水準5%の片側検定で、有意である学習内容群をG2とした。

また、各学習内容に対して、中学校教諭が授業で身に付けさせることが易しいと感じる学習内容あるいは授業で身に付けさせることが難しいと感じる学習内容のどちらか1つを答えた回答者を対象に、2つの回答数の違いを符号検定で検討した。その結果、有意水準5%の両側検定で、有意である学習内容群をG3とした。

これらの結果から、G1かつG3に属する次の学習内容を「中学校教諭が授業で身に付けさせることが易しいと感じる学習内容」とする。

- ・(聞くこと、コミュニケーションへの関心・意欲・態度)「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる
- ・(話すこと、コミュニケーションへの関心・意欲・態度)「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる
- ・(読むこと、コミュニケーションへの関心・意欲・態度)「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる
- ・(読むこと、外国語表現能力) 英語を正しく発音することができる
- ・(聞くこと、外国語理解能力) 英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる
- ・(聞くこと、外国語理解能力) 場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる

同様に、G2かつG3に属する次の学習内容を「中学校教諭が授業で身に付けさせることが難しいと感じる学習内容」とする。

- ・(話すこと、外国語表現能力) 自分の考え方や気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる
- ・(話すこと、外国語表現能力) 場面や状況に応じて英語を適切に話すことができる
- ・(書くこと、外国語表現能力) 自分の考え方や気持ちなどを英語で正しく書くことができる
- ・(書くこと、外国語表現能力) 目的に応じて英語で適切に書くことができる

また、G1あるいはG2に属するがG3に属さない次の内容を「中学校の各教諭により授業で身に付けすることが易しいと難しいに分かれる学習内容」とする。

- ・(聞くこと、言語や文化についての知識・理解) 言語の背景にある文化について理解している
- ・(書くこと、言語や文化についての知識・理解) 英語やその運用についての知識を身につけている